

地域力を活用した安全を確保する取組

(岩国市立麻里布小学校)

〈ねらい〉

学校・家庭・地域が連携して、学校安全3領域の観点から総合的に通学路の安全点検や安全マップづくり等を行う活動を行うことにより、地域ぐるみでの学校安全活動の充実を図るとともに、子どもたちが「自他の命を守る」という高い安全意識を育むことを目的として実施する。



取 組 内 容

1 実施期間：平成29年4月24日～平成30年2月28日

2 実施校：岩国市立麻里布小学校（校長：松村 祐介）

3 取組内容

麻里布小学校地区の特徴

- 交通量が多く、狭い道が網の目のように入り組んでいる。
- 繁華街等に位置し、不特定多数の人の往来がある。
- 大規模な住宅街があるが、日中は人气が少ない。

取組の方向性について

《第1回実践委員会の開催》

5月19日麻里布小学校で、第1回実践委員会（学校運営協議会に合わせる）を開催し、年間を通した取組計画等について話し合った。

【確認事項】

- ① 児童の安全意識の向上
- ② 継続して取り組んできたことのブラッシュアップ
- ③ 地域力の活用の促進

以上の点について取組を進めていくことを確認した。



〔第1回実践委員会の様子〕

具 体 的 な 取 組

1 児童・教職員の取組

(1) 通学路安全マップづくり

ア 通学路の危険箇所調査

学校安全アドバイザー、保護者とともに通学路の危険箇所の調査を行った。交通事故の発生しそうな場所や不審者が出没しそうな場所を写真やメモに記録した。

学校安全アドバイザーの方からもアドバイスをいただきながら調査ができ、専門的な立場から貴重な意見がもたらされた。



〔通学路の危険箇所調査の様子〕

イ 通学路安全マップの作成

グループで話し合い、撮影・確認した危険箇所等を大判用紙にまとめた。

発見を持ち寄り、グループで危険箇所等を共有する



青付箋：交通
緑付箋：防犯

地図上に整理してみる



プレ発表会



保護者、学校安全ボランティア、学校安全アドバイザー(H29)を迎え、1グループずつ説明をした。

もらった意見を踏まえ、保護者の協力も得ながら、大判用紙にまとめる



ウ 取組のまとめ発表

参観日に保護者に成果を発表するとともに、学校掲示板に掲示し交通安全等を呼びかけた。



児童の感想より

- 危険な場所の方が安全な場所より多いことがわかった。危険な場所にはできるだけ近づかないようにしたい。
- 子ども110番の家や店を確認しておきたい。
- 安全ボランティアの人が安全を確認してくれていても、きちんと自分の目で見る。
- 一年生となるべく一緒に帰る。
- 防犯ブザーをもち、できるだけ一人では帰らない。

思いのこもった安全マップ完成



校内掲示の活用



(2) 教職員の研修

県の「セーフティライフセミナー」を活用し、「自分の身は自分で守る ～子ども安全編～」というテーマで、教育庁学校安全・体育課 指導主事 上田幸一郎 様にご指導をいただき、教員の防犯意識の向上や実践力の向上を図った。



〔校内研修（護身術）の様子〕

子どもたちの命を守るために
～我々大人が子どもたちに自信を持って～

- ・身だしなみ
- ・整理整頓
- ・あいさつ

大切さを伝えることが重要

これからの安全教育
気づき・考え・行動できる
「どの位置が安全？」

具体的でわかりやすい
ご指導をいただきました。

〔講話の内容について〕

(3) 不審者対応訓練

休み時間に不審者が敷地内に進入し、子どもに声をかけた設定で、教育委員会、岩国警察署の協力を得ながら実施した。岩国市内でも頻繁に不審者の目撃情報があり、子どもの意識は高いものの、具体的な対応などを教えてもらえるのは大変有意義であった。



〔不審者への対応の様子〕



〔警察官による安全に関する話の様子〕

(4) 保護者への引き渡し訓練

大規模地震発生を想定し、保護者の協力を得ながら、引き渡し訓練を実施した。本年度で2回目となるが、引き渡しに向けてのノウハウが蓄積されスムーズな引き渡しができる。



〔保護者の送迎の様子〕



〔児童の引渡の様子〕

2 学校・家庭・地域の連携

(1) 学校安全ボランティアによる見守り

現在、68名が学校安全ボランティアに登録しており、年度初めには会議を実施して、年間の打ち合わせをしたり、気づきをいただいたりしている。見守り活動は、4月は毎日1年生について下校してもらっている。年間を通じては可能な日や一斉下校に参加してもらっている。

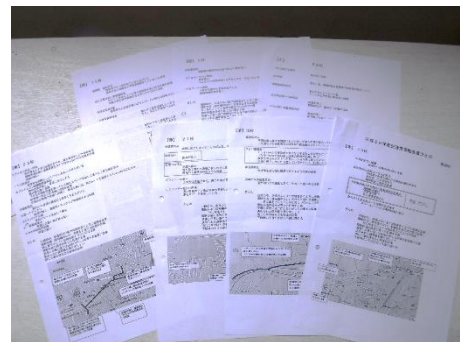


[4月の1年生下校の送迎の様子]

(2) 保護者による危険箇所等の点検

保護者から通学路の気づきをもらい、PTAの環境部がとりまとめた。危険箇所などについて多くの人の目で確認でき、大変よい資料となっている。

平成28年度末に集計まとめをし、平成29年度に会議などで活用している。今後は、3年に1回程度の割合で実施していきたいと考えている。



[保護者の気づきのとりまとめ資料]

(3) 子ども110番の家

校区内に100軒近い子ども110番の家があり、子どもの安心・安全な生活に協力いただいている。本年度も新たに2軒の申し出があった。



[子ども110番の家の場所]

(4) 通学路改善推進委員会の発足

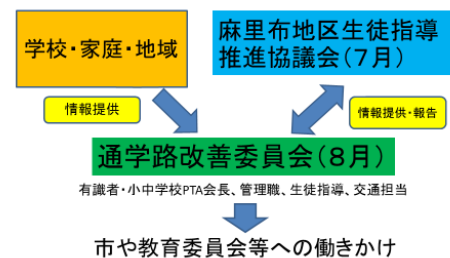
安全マップ作りの過程で見つかった課題について、学校安全アドバイザーからアドバイスをいただき、自治会等に相談をした。その後自治会等から岩国市に働きかけがあり、路側帯が幅を広げて塗り替えられた。児童の取組が地域貢献にもつながり、児童の自信になった。また、その成果をきっかけに、地域の方からの発案で通学路改善推進委員会が発足し、本校でも通学路を継続的に見直し、改善に向け取り組む仕組みづくりが進んだ。



[改善前]



[改善後]



[仕組み作りの推進]

取組の総括

《第2回 実践委員会の開催》

1月16日に、第2回実践委員会を開催した。委員会では、麻里布小学校で今年度実施した取組を説明するとともに、取組全体を通じた気づきや感想等を話し合った。また、教育庁学校安全・体育課の大野主幹をはじめ、学校安全アドバイザーの吉川さん、稲田さんからもご指導をいただき、有意義な会となった。

4 成果と今後に向けて

《成果》

○ 児童及び教員の防犯意識の向上

家庭や地域と連携した安全マップの作成・活用、不審者対応訓練、教職員研修等の取組を通して、児童や教職員の意識の向上が見られた。今年度は、学校安全アドバイザーの方から専門的な立場からのアドバイスをもらうことができ、大変有意義であった。

○ 児童の学習活動と地域の働きかけによる一部通学路の整備の実現

児童の危険箇所調査の取組により、通学路の路側帯が整備される等、具体的な成果が見られ、児童の自信につながるとともに、地域に貢献する活動ができた。

○ 恒久的な通学路改善に向けた仕組みの構築

路側帯の改善をきっかけに、地域の方からの発起によって通学路改善推進委員会が発足した。今後、具体的に通学路の改善を進めていくための仕組みづくりが進んだ。また、PTA 環境部がまとめた通学路の危険箇所資料等も十分に生かすことができた。

《今後に向けて》

○ 小中学校で連携した取組の推進

中学校区に1小学校である強みを生かし、通学路の安全についても小中学校が連携して取組を進めていきたい。

○ 子ども110番の家の確認

岩国市内の中心街や繁華街、大規模住宅地を抱える校区は、地域の様子が年々めまぐるしく変化しており、110番の家についても、今一度確認が必要であると考えている。